

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	国産部品工業株式会社 桜が丘工	階数	外観パース等 写真: 1/2024/04/27 写真: 2/2024/04/27 写真: 3/2024/04/27	
建設地	京都府綾部市	構造		
用途地域	都市計画区域内	平均居住人員		
地域区分	5地域	年間使用時間		
建物用途	工場	評価の段階		
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日		
敷地面積	13,048 m ²	作成者		
建築面積	3,222 m ²	確認日		
延床面積	3,240 m ²	確認者		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.6 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境品質 (Y軸) vs 環境負荷 L (X軸)	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフはLR3「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。 ④は参考として運用分をBEE+で表示しています。	Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR3 敷地外環境 LR2 資源・マテリアル LR1 エネルギー Q1 室内環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q のスコア = 2.2		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.7 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9 機能性 耐用性 対応性	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.4 生物環境 まちなみ 地域性・
LR のスコア = 2.9		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.7 建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1 水資源 非再生材料の 汚染物質	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.9 地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合 周囲の環境・景観を考慮し、建物を色彩を決定し、建物を配置した。工場の運営に関しては各動線を考慮して円滑な事業運営を行う	その他 周辺環境に配慮した施工を行う	
Q1 室内環境 採光を確保するためハイサイドの窓を設置し、自然換気も窓、シャッターから常時行う	Q2 サービス性能 十分な空間の高さ、ゆとりを確保した	Q3 室外環境(敷地内) 周りの環境に調和するように形状・色彩の建物とした
LR1 エネルギー 特になし	LR2 資源・マテリアル 建築基準法・シックハウスによる基準を順守	LR3 敷地外環境 地域環境を配慮した工場計画及び工場運営を行う

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	国産部品工業株式会社 桜が丘工	階数	外観パース等	
建設地	京都府綾部市	地上1F		
用途地域	都市計画区域内	構造		
地域区分	5地域	平均居住人員		
建物用途	工場	年間使用時間		
竣工年	2027年1月 予定	評価の段階		
敷地面積	13,048 m ²	評価の実施日		
建築面積	3,222 m ²	作成者	株式会社 塩見貴秀	
延床面積	3,240 m ²	確認日		
		確認者		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価結果 (レーダーチャート)
BEE = 0.6 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境効率 L	標準計算 このグラフはLR3 1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。 ④は参考として運用分をBEE+で表示しています。	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.7	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.4
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.7	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	周囲の環境・景観を考慮し、建物を色彩を決定し、建物を配置した。工場の運営に関しては各動線を考慮して円滑な事業運営を行う	
その他	周辺環境に配慮した施工を行う	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
採光を確保するためハイサイドの窓を設置し、自然換気も窓、シャッターから常時行う	十分な空間の高さ、ゆとりを確保した	周りの環境に調和するように形状・色彩の建物とした
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
特になし	建築基準法・シックハウスによる基準を順守	地域環境を配慮した工場計画及び工場運営を行う

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される